

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

| ア 知識及び技能 | イ 思考力、判断力、表現力等 |
|---|---|
| 基本的な語や文法事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して習得させる。 | 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチなどで表現する力を養う。 |

| | 生徒の学力の状況(課題) | 授業における具体的な手だて | 手だての実施時期 | 成果検証(2月) |
|------|---|--|----------------|----------|
| 第1学年 | ア 単元テストや定期考査の結果から、英単語の正しい発音やつづりが定着しておらず、語彙力に課題がある。 イ 自分のことや身近なことを英語で表現することに課題がある生徒が多い。 | ア 語彙の定着を図るため、毎授業で小テストを実施する。書き取りにとどまらず、意味・発音も確認させ繰り返し学習による定着を図る。 イ 自己紹介や日常生活に関する簡単な英作文など、身近な題材を用いて自分の考えを英語で表現する活動を取り入れる。 | ・通年 ・通年 | |
| 第2学年 | ア 定期考査の結果から、同じ意味を示す文章に書き換えることや異なる語句を用いて言い換えることに課題のある生徒が多い。 イ 授業中の取組の様子や定期考査の結果から、覚えた熟語や単語を自己表現のために活用することに課題のある生徒が多い。 | ア Part 毎に週末課題として、同じ意味を示す文章に書き換える問題や異なる語句を用いて言い換える問題を含む練習プリントに取り組ませる。 イ 教科書 Goal のパフォーマンス活動や Let's Talk の会話表現を帯活動に取り入れる、教科書 Unit の修了時にストーリーテリングを行うなどし、新出単語や熟語を活用して表現する活動を計画的に授業に取り入れる。 | ・通年 ・通年 | |
| 第3学年 | ア 定期考査の結果から、語彙や文法などの基礎的な知識の定着に課題がある。 イ 7 月実施の GTEC の結果等から、自分の意見を伝えることに課題が見られる。 | ア 文法事項について、基本となる英文を暗唱させる活動を授業内に取り入れていく。くり返し暗唱することで、自然な形で文法事項を身に付けるようにする。 イ 日常的な話題について場面や状況を設定し、目的に応じた適切な表現を用いて会話練習をすることを毎回実施し、即興的な会話練習や、スピーチをさせる機会を設ける。 | ・通年 ・通年 | |

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

1年: デジタル教科書の読み上げ機能を利用して、生徒各自が自分の読み方を確認しながら、発音や読みの正確性をチェックできるようにする。
2年: 生徒自身が授業を復習する際にデジタル教科書、自己表現活動の補助教材・共有ツールとしてのロイロノートを有効活用する。
3年: スピーチなどの活動の際には、タブレット端末に原稿を提出させたり、発表時に大型提示装置で投影したりすることで、伝わりやすい発表を目指す。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年: 毎授業の冒頭で、学習の目的や達成すべき目標を明確に伝えることで、生徒が学習の意義を理解してから授業に入るようにする。
2年: 教科書本文プリントに Unit ごとの要点整理と達成状況の確認を記載させ、以後の学習課題を明確にする。
3年: 定期考査後に、学習内容や学習方法について観点別に自己分析を記入させる。次回までの学習調整のための振り返りを書かせることにより、学習の見通しをもたせる。